



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

巻頭言 地域局(始良・霧島地区担当理事) 東 早代

今号目次

- 巻頭言 1ページ
- 社会局(広報)言語聴覚の日イベント報告 2-3ページ
- 新人紹介 4-5ページ
- 事務局通信 6-7ページ
- 地域局 8ページ
- 社会局(公共事業・保険) 学術局(成人) 9ページ
- 学術局(小児) 10ページ
- 学術局(新人教育) 11ページ
- 学術局(生涯学習) 12ページ
- 財務局 編集男誌 13ページ

会員の皆様、平素より県士会活動にご理解・ご協力いただき有り難う御座います。

夏の暑さが和らぎ、最近では朝晩も幾分涼しく過ごしやすい季節となってきました。この夏は、鹿児島や佐賀県、関東地方などでも大雨や台風による大きな被害があり、自然の脅威を痛感するばかりです。

さて、5月から令和という新しい元号が始まり、約半年が経とうとしています。新しい時代のこの短い期間でも様々な出来事が起こり、私達を取り巻く環境も目まぐるしく変化しています。国が進めている地域包括ケアシステムでは、地域の中での言語聴覚士の役割が期待されています。特に「聴覚」の部分では潜在的なニーズは多いものの、まだまだそれに十分応えられるようなシステムが整っていないのが現状であり、今後大きな課題のひとつでもあります。一方で、地域介護講座やお達者クラブでの講話や、健康まつりへの参加、言語聴覚の日のイベントなど、言語聴覚士が施設外に出向き、地域の方々と接する機会は年々増えてきています。私が担当している始良・霧島地区では一部の行政と言語聴覚士養成校が提携し介護予防事業に取り組んでいます。依頼された講座には可能であれば学生も参加し、地域リハビリ活動を支援する言語聴覚士の役割を学ぶ機会を作っています。このように、言語聴覚士の卵である学生にも資格を取得する前からこのような取り組みを知ってもらうことや、地域の方々に言語聴覚士の専門性を理解していただくことも、将来につながる地域リハ活動の大切な一環と考えています。

また、先日皆様にアンケート調査のご協力を頂きました失語症者向け意思疎通支援者養成事業という新しい取り組みも始まっています。意思疎通支援事業とは、障害者総合支援法において意思疎通の支援を行う者の派遣や養成等を行う制度であり、都道府県の必須事業として行われるものです。他の都道府県では養成事業が開始されているところもありますが、鹿児島県では2020年度からの支援者養成を目指して現在準備を進めております。これには会員の皆様のご協力が必要となりますので、今後のお知らせなどをご確認いただき、どうぞお力添えをお願い致します。

鹿児島県の言語聴覚士数が増えていく中で、私たち関わることができる分野は医療・介護・福祉だけでなく、今後も更に拡大していくと思われます。そのためにも、これまでよりも更に強く、様々な繋がりをより密接に構築すること、同じ地域、施設間での言語聴覚士同士の“見える化”や関連団体・地域との連携を図ることがとても大切であると私自身強く感じているところです。会員の皆様も同じ気持ちで協働して頂けたら幸いに思います。

平成31年度 「言語聴覚の日」イベント報告！！ (イオンモール鹿児島&市電)

今年度も一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会では、9月1日(ちょうど「言語聴覚の日」!)に鹿児島市内のイオンモール鹿児島様の一角をお借りし、「ことばの相談会」を開催させていただきました。今年は日曜日の開催という事もあり、ファミリー層はもちろんの事、県士会会員の言語聴覚士の方も多く来場されておりました。



例年実施させていただいております「ことばの相談会」は、ことばに関し気になること全般の相談をいただいております(もちろん、聞こえや飲み込みも歓迎しております)。

今年度も、ことばの発達に関する小児言語の内容を多く頂きました。県士会会員の小児に関わる言語聴覚士が直接話を伺い、相談にあたらせて頂きました。また、毎年このイベントに来てくださっている方もおられ「言語聴覚士は必要だよね」といったコメントもいただきました

た。毎年実施していくなかで、徐々にではありますが言語聴覚士の業務内容が浸透してきている事を感じております。しかし、まだまだ言語聴覚士の社会的な認知度や人数は充足しているとはいえない状況です。今後も積極的な広報活動を実施し、認知度の向上と言語聴覚士を志す方が増えてくれると事を期待したいと思います。

さて、イベントでは相談もさることながら、今年も鹿児島県言語聴覚士会の可愛いロゴマークをプリントした風船を準備し、言語聴覚士の仕事内容の案内をさせていただきました。イベント会場の前を通る小さなお友達へ風船のプレゼントを行わせていただきました。この日のイオンモール鹿児島は鹿児島県言語聴覚士会のロゴが入った色鮮やかな風船一色となりました。風船を手を持つ子ども達の嬉しそうな表情に救われながらイベントスタッフ一同楽しい時間を過ごさせていただきました。



また、8月1日～9月1日の1か月間、鹿児島市内を走る路面電車の側面に「9月1日は言語聴覚の日」とプリントした車両を今年度も走らせて頂きました。車両内の窓吊りポスターと車両側面に県士会のロゴ入り広告を掲載させていただきました。この期間、路面電車を利用された多くの方々に対してアピール出来ていれば幸いです。

今後も、社会局広報部では「言語聴覚の日」のイベントはもちろんの事、言語聴覚療法の必要性の啓発や、専門性が活かせるようなイベントに積極的な参加を考えております。今後も会員の皆様の協力が必要です。ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。最後に、今回のことばの相談会にご協力いただいた会員の皆様、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

社会局広報 小牧 祥太郎



新人紹介 I

米盛病院

濱崎 友華

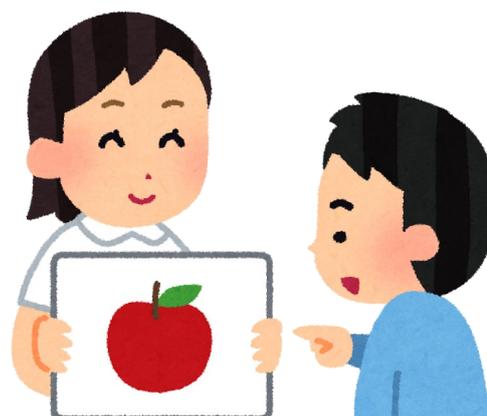
私は平成31年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在は鹿児島市にある社会医療法人緑泉会米盛病院に勤務しております。

当院は、整形外科、救急科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、消化器外科、形成外科、内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、心療内科、放射線科、産婦人科、リハビリテーション科、リウマチ科、小児科、麻酔科などの診療科があり、その中でも私は、主に回復期病棟のリハビリテーションに携わらせて頂いています。

入職当初は、学校で学んだ知識や臨床実習で得た経験だけでは対応できない場面が多く、自分の未熟さを痛感することが続きました。現在も、1人1人の患者様に必要なリハビリテーションを提供できるよう、上司や先輩方に相談させていただきながら、言語聴覚士として業務に携わらせていただいています。

臨床現場では、患者様の今後の生活に必要な事が何かを想定し、訓練立案・予後予測等を行うことを心がけております。また、リハビリを進めていく中で他職種との連携は必要不可欠であり、患者様やそのご家族だけではなく、多職種とのコミュニケーションの大切さも日々実感しております。

現在、入職してから約半年が経とうとしていますが、まだまだ知識や経験が不足しており、力不足を実感する日々が続いております。患者様に笑顔で感謝していただける言語聴覚士を目標に、これからも日々精進していきたいと思っております。



新人紹介 II

出水郡医師会広域医療センター 小倉 慧那

私は平成31年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、出水郡医師会広域医療センターの診療技術部リハビリテーション科所属、言語聴覚士として勤務しています。リハビリテーション科は、ST6名の他、PT24名、OT15名が所属しています。当院では内科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、小児外科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、眼科の診療科があります。STは主に脳神経外科、循環器内科、消化器内科の患者様に携わらせて頂いています。

入職して4ヶ月が経過し、少しずつ出来ることが増え充実した毎日を過ごしています。その中で自分の知識不足を感じ、これまで使用していた教科書を繰り返し読んだり、先輩方に質問したり、また他職種の方に質問をして患者様のために、そして自分が自信を持ってリハビリを行えるように日々努力しています。時に、STに向いているのかと悲観的になることもありますが、学生時代からの先輩が所属しており、悩みを相談しやすく精神的な面でも助けられています。当院のリハビリスタッフは特に仲が良く、リハビリ室は和気あいあいとしており、仕事に行くことが楽しいと思えるほどです。そういった環境の中で、STとして業務を行えることは幸せなことであると日々痛感しています。

STとしての日も浅く、これから学ばなければならないことは多くあるため、自分自身での勉強の他、講習会への参加等に向上心を持って積極的に取り組みたいと思います。今後も努力してまいりますので、何卒、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



事務局通信

7月理事会

- ・県くらし保健福祉部高齢者生き生き推進課より「認知症を理解し一緒に歩む県民週間」講演の後援依頼→承認
- ・NPO法人言語聴覚障害児・者社会活動支援の会(通称サフランの会)より「失語症友の会(当事者と家族の会)設立・連絡・調整業務を支援する助成金」については、10月理事会を目途に使用方法を検討する。
- ・令和元年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会受講者は濱崎氏(ひらまつクリニック)、倉山氏(クオラリハビリテーション病院)を推薦する。
- ・慶弔に係る規定を作成した。
- ・今年度の言語聴覚の日イベントは、イオン鹿児島にて実施予定である。

8月理事会

- ・令和元年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修事業業務委託見積書送付した。
- ・第9回日本言語聴覚士協会九州地区学術集會長崎大会より、大会概要・チラシ・演題投稿依頼・一般演題募集の案内があった。
- ・全国協会より失語症者向け意思疎通支援事業に関するアンケート送付あり、竹中理事を中心に作成することとした。
- ・県士会員向けの失語症者に関するアンケートは9月13日まで延長することとした。
- ・今年度の市民健康まつりは、一般高齢者だけでなく小中高生向けにも取り組むこととした。

事務局通信

(8月理事会の続き↓)

・地域リハ研修検討部会に黒木副会長が参加し、研修会用のスライドを作成した。

9月理事会

・県障害福祉課より令和元年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修申し込み完了の報告があった。

・県くらし保健福祉部より「鹿児島県地域リハビリテーション活動促進研修検討部会」の検討結果について送付があった。

・鹿児島市地域リハ活動支援事業に関して、協会任意保険未加入者の従事が数件あった旨を田場副会長より報告があった。今後、協会任意保険未加入者の担当分は、他の会員に振り分けることになった。

・9月1日にイオンモール鹿児島で実施された「言語聴覚の日イベント」について、盛会のうち終了した旨の報告があった。

・2年間会費未納者の報告がなされ、最終督促後入金が確認できない場合は、除籍とすることとした。

一般社団法人 鹿児島言語聴覚士協会 事務局
松尾康弘

地域局(南薩地区担当)

新年度が始まり約半年が過ぎました。新人STの皆さんも徐々に職場や業務に馴染めてきているのではないのでしょうか。地域局では鹿児島地区、姶良・霧島地区、北薩地区、南薩地区、大隅地区の5つの地区に理事を設けております。地域局の主な仕事は、会員の皆様への連絡や、生涯学習プログラム症例検討会、地区ごとの勉強会計画等の計画・運営です。

他地区でも同様ですが南薩地区では新年度最初の活動は恒例の懇親会を企画しております。新人の方を始め、臨床経験豊富な先輩STも参加していただき形式張った顔合わせではなく多くの方と率直な交流ができ毎年地区の親睦がより深まり、年度スタートへのカンフル剤となっております。

また、南薩地区では施設ごとに持ち回り制で伝達講習やケーススタディ、勉強会など様々な形式を取り入れた勉強会の取り組みを行なっております。独り職場も地区内に多く疑問や悩みなど意見交換やグループワークも可能な限り取り入れて情報共有を図っています。

今後も、県士会員皆様のご意見やご要望を県士会活動に反映できる様に努めて参りたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。(地域局理事一同)

馬場病院 川畑惇

TEL:099-296-2611 FAX:099-296-5610



敬老の日



社会局(公共事業・保険担当)

社会局(公共事業・保険担当)

令和元年度は、公共事業として鹿児島県介護実習・普及センターよりご依頼いただきました介護講座講師9件を中心に、各地での講習会等へ講師派遣を行っております。様々な地域での講師依頼も増加傾向にありますので、多くの言語聴覚士の方々のご理解とご協力を今後とも宜しくお願い致します。

診療報酬に関するお問い合わせは、現在までに1件です。内容としましては、施設基準におけるST専従の解釈についての問い合わせとなっております。診療・介護報酬をはじめ、施設基準等に関しましては、複雑な内容のお問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会にお問い合わせいただくこととなりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会にお問い合わせさせていただきたいと考えております。

日本言語聴覚士協会お問合せフォーム

☞ <http://www.jaslht.or.jp/form.html>

垂水市立医療センター垂水中央病院 竹中恵太
Tel 0994-32-5211 Fax 0994-32-5722

学術局(成人)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき、誠にありがとうございます。成人学術局担当理事の坂口です。今年度の成人学術局の研修は令和2年2月9日(日)に介護老人保健施設マロニエ苑リハビリテーション室の黒羽真美先生をお招きし、研修会を行う予定です。地域包括ケアシステムの概念が取り入れられ、STも病院だけでなく地域での役割や生活期での言語聴覚療法が求められており、今回の研修会を企画致しました。

～ 皆様のご参加をお待ちしております。よろしくお願ひ致します ～

サザン・リージョン病院 リハビリテーション部 坂口彩
TEL:0993-72-1351 FAX:0993-72-2128

学術局(小児)

<研修報告>

○鹿児島県言語聴覚士会第8回学術講演会

去る令和元年5月19日に鹿児島県言語聴覚士会第8回学術講演会を開催いたしました。参加者は159名でした。講師は子どもの発達支援を考えるSTの会 代表の中川信子先生に「子どもの発達と言語聴覚士の役割～幼児期から学童期の多職種連携～」というテーマでご講演いただきました。これまでの子どもを取り巻く支援の変遷や先生自身のこれまでの葛藤や経験を知ることができました。家族やそれぞれの支援者といかに子どもを認め協働していきべきか考える機会になりました。

○JDD(日本発達障害)ネットワークinかごしま2019

去る令和元年8月4日に、JDD(日本発達障害)ネットワークinかごしま2019を霧島市民会館にて開催いたしました。前日の3日には「僕は海が見たくなりました」の上映会を行いました。4日のセミナー参加者は511名の参加でした。基調講演は「発達支援のむこうとこちら～つなぎあい ささえあい みとめあい～」というテーマでご講演いただきました。

ASD、ADHD、LDの発達障害のそれぞれの特徴の再認識について、ライフステージによっても悩みや困り感は変化していくため、幼少期～成人期まで関りを継続していくことが重要であること、実際の相談内容を盛り込んだ講演で個別に考えることの重要性を改めて知ることができました。それだけ個性が豊富であることと印象付けられました。

田中先生の講演は生きづらさを抱えた本人と家族を、障害を通して支え続けられる支援者が増えてほしいとの願いがこもった講演でした。

午後のシンポジウムでは、「教育と福祉の連携」～霧島市の取組みを通して～でした。平成29年～30年度に霧島市で行われた放課後等福祉連携支援事業についての報告をいただきました。学校と放課後等デイサービスが連携を図り、定期的な交流会や研修会を行うことで顔の見える関係を構築。相互の情報を共有し、教育現場で活かせる支援を提供し、子ども達が安心・安定した場で学習できる環境づくりに取り組んだ内容でした。

○鹿児島県言語聴覚士会定期総会にて「発達部会」が承認されました。これから鹿児島の子供達の支援の充実とST間の情報共有、顔の見える関係、声の聴ける関係を構築できたらと思っています。皆さまのご協力をお願いします。

TASUC株式会社 たすく鹿児島教室

西野 将太

Tel 099-828-8404 Fax 099-828-8404

学術局(新人教育)

令和元年9月21日(土)令和最初の新人教育研修会を開催しました。

「失語症訓練プログラムの組み立てかた～症例を通して～」というタイトルで、小原病院の田中敦先生にご講演いただきました。

「失語症」は私たちSTにとって、いかなる職種よりも理解していなければならない領域だと考えます。しかし、“苦手”という声も少なからず耳にすることがあるように思います。

田中先生には、画像診断や失語症臨床の流れ、評価から症状の個別性を理解し、アプローチすることの重要性を細かく丁寧にお話しいただきました。特に評価においては、SLTAを細かく分析すること、SLTAのみでは捉えることのできないより詳細な部分の評価についても症例を提示しながらご教授いただき、臨床でのイメージもわきやすかったように思います。

画像診断や評価バッテリー、訓練課題についても、おすすめの書籍等もご紹介いただき、特に若手の皆さんにとっては臨床で役立てることのできる情報が盛りだくさんだったのではないのでしょうか？

私自身、講演の中で印象的だったのは、田中先生が「インテーク面接」の重要性を繰り返し述べられていたことでした。私たちSTは失語症の方々の「よき理解者」でなければならず、そのためには、評価や訓練はもちろん、信頼関係を築くことが何よりも大切だということを再認識しました。

今後、失語症者向け意思疎通支援者養成事業も展開されていきます。失語症の臨床はもちろんのこと、失語症者の方々と向き合う姿勢を学ぶことのできた、大変有意義な講習会でした。

今後も、臨床や社会上のニーズにつながる講習会を企画していきたいと考えています。

ご要望ございましたら、どしどし石原までご連絡ください！！

米盛病院 石原 禎人

Tel 0992-30-0100 Fax 0992-30-0101

学術局(生涯学習)

令和元年9月21日(土)に基礎講座①「臨床のマネジメントと職業倫理」・基礎講座②「臨床業務のあり方、進め方」(講師:馬場病院 牧尾 圭将 氏)を開催しました。当日は台風接近にも関わらず、19名の会員が参加し、生命倫理(1.自立尊重の視点、2.善行の視点、3.悪不履行の視点、4.正義・公平の視点)を基に対象者の人権や職業人としての考え方や、医療安全管理としてリスクマネジメントの重要性、賠償責任保証、他職種との連携を学びました。休憩時間では旧友や恩師との再会で会話も弾み、各施設間との情報共有の場にもなりました。これまで基礎講座では日本言語聴覚士協会に入会していない方がおり、受講出来ない方もいました。入会されていない方はお早めに手続きをお願いします。

12月15日(日)には春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 内山 量史先生(日本言語聴覚士協会 副会長)をお招きし、「臨床実習」をテーマに専門講座を開催します。言語聴覚士は臨床だけではなく、研究・教育を行う事も重要な役割です。特に『教育(育成)』に関しても、会員の施設でも言語聴覚士の卵(実習生)を指導する機会があると思います。しかし、以前のような指導方法が最近の実習生には反映されにくいなど、ジェネレーションギャップや時代背景もあり、指導者自身も指導方法について頭を悩ます事があります。2018年に臨床実習マニュアルが日本言語聴覚士協会HPで公開されております。評価・訓練・指導方法など実習指導を行う上で、とても参考になる内容です。今回の専門講座では、臨床実習マニュアルの内容に加え、実習生としての心構えや、知識・技術を習得する為に適切な指導方法についてレクチャーして頂く予定です。実習指導者にとっては必見の研修となっております。さらに生涯学習プログラム(取得ポイント)2ポイントの対象となります。申込は11月上旬に各地域局からの配信メール又は県士会ホームページの学会・研修会にてご案内いたします。多くの参加を心よりお待ちしております。

公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院
医療技術部 リハビリテーション科
樋渡 健太郎
TEL:099-226-9111
FAX:099-805-2509
MAIL:momotarothsamurai@gmail.com

財務局

会員各位

平素より大変お世話になっております。会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。口座登録をしてくださっている会員の方につきましては6月に引き去りをさせて頂いております。ご確認よろしくお願い致します。領収書が必要な方はご連絡いただけますと送付いたしますのでお知らせください。

今年度の会費を納められていない会員の方は納入を宜しくお願い致します。

また、まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただけますようよろしくお願い致します。

申込用紙につきましても、送付いたしますのでご連絡ください。

ご不明な点は、以下のご連絡先までお問い合わせください。

〒892-0482 鹿児島市堀江町17番1号
いづろ今村病院 リハビリ室 言語聴覚士 下舞美和
TEL:(099)226-2600
FAX:(099)225-5181
MAIL:kago_st@yahoo.co.jp

編集男紙

朝夕は暑さも和らぎ、肌寒く感じる日が増えてきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年インフルエンザの流行も例年より早く、学校や職場でも早々と罹患する方がおります。想定外の展開で感染流行の対策が手遅れにならないように気を付けたいものです。

さて、この時期我が家では運動会シーズンを迎えております。今年長男が年長さんということで「親子リレー」たる種目が待ち構えています。。。恐怖です(笑) 毎年のようにケガ人が出ますので、自分がそうならないように注意しなければならない思いと、子供のために1位を取ってあげたい思いとありましてなかなか難しいところがございます。そんな私は、夏の疲れが残っているのか胃腸の調子が良くないので、最近腸を元気にということで「菌活」を始めました。納豆、きのこ、ヨーグルトなど、人によって相性はさまざまです。自分に合った菌を探してみると普段の体調管理に便利ですよ♪是非、みなさんも探してみてください。

三船病院 大島